

■阿部正弘 老中。幕末の難局に開明的に対応して処理し、その手腕を評価されたが、過労で急死した。

あべまさひろ

群書類従完結1819= 江戸西ノ丸屋敷で、福山藩主阿部正精の五男に生まれる。

・・・・・・1826= 7歳：父が死去して、兄正寧が後を継いだことから、本郷の中屋敷に転居。

シボク事件・1828= 9歳：

兄正寧が病弱だったため、

・・・・・・1836=17歳：藩主の兄正寧が隠居した後をうけ、福山藩10万石を襲封し、

大塩平八郎乱1837=18歳：お国入りするが、以後、江戸に留まる。

適塾ホヰン・1838=19歳：奏者番、

勸進帳初演・1840=21歳：寺社奉行見習、

天保改革始・1841=22歳：寺社奉行を務め、

天保改革弾圧1842=23歳：下総中山法華経僧侶の女犯事件を処断して令名を馳せる。

順天堂始・・1843=24歳：*異例の若さで老中に就任し、

阿部正弘首座1845=26歳：*水野忠邦罷免後、首席老中となった。

孝明天皇・・1846=27歳：

宇和島藩主伊達宗城らの進言を入れ、

尊徳報徳論・1851=32歳：鹿兒島藩主島津斉興を隠居させ、改革派の斉彬を藩主として同藩の内紛を解決。

福山藩の改革にも努めながら、

ペリー来航・1853=34歳：*アメリカ使節ペリーの開国要求に対し、諸大名、幕臣に諮問して衆議制の端緒を開き、

開国開港・・1854=35歳：ペリーの再来航に際して秘密命令を与え、日米和親条約(神奈川条約)を締結した。幕府と有力諸侯との協調

路線をとり、従来の幕政の姿勢を転換した。また、川路聖謨、岩瀬忠震や勝海舟、筒井政憲ら俊才を海防

や外交の第一線に抜擢し、洋学所(蕃書調所)、長崎海軍伝習所、講武所を設立するなど開明的政策を実施し

た。しかし、溜間詰譜代大名の反発を招いたため、

安政大地震・1855=36歳：首席老中の座を堀田正睦に譲り、同時に内政を中心に担当することで反発をかわしたが、

蕃書調所・・1857=38歳：*過労で急死した。